

私たちの街ではこんなことやってます



わ か ば 作 業 所

わかば共同作業所は、昭和五十九年に、精神障害回復途上者の社会施設として開設され、作業の場、いこいの場、生活の場と多様な機能をもつ施設であります。

平成三年三月に新しく竣工し、建物は二階建延べ面積六十坪、定員は二十名となり、職員は所長、指導員、事務職の三名で、地域のボランティアの方々のご協力をいただいております。作業所は、国、県、市の補助金で運営され、長年の家族の悲願が実ったものであります。今日、国際障害者年十年を期に、ノーマライゼーションの思想が普及し、障害のある人もない人も共に地域で普通に暮らせる時代を迎えました。

作業所の通所生も、病気と障害と偏見にめげず毎日元気に働いています。地域の方々の温かいまなざしや言葉にどんなに励まされることでしょう。不況の中で、就労への道や作業所の仕事も厳しい状況にありますが、地域に守られ、授けられ、開かれた作業所をめざして努力いたしております。

障害者の人権擁護と福祉の充実により、障害者の社会参加と社会復帰の促進を願う日々であります。

「海蔵の寺社」

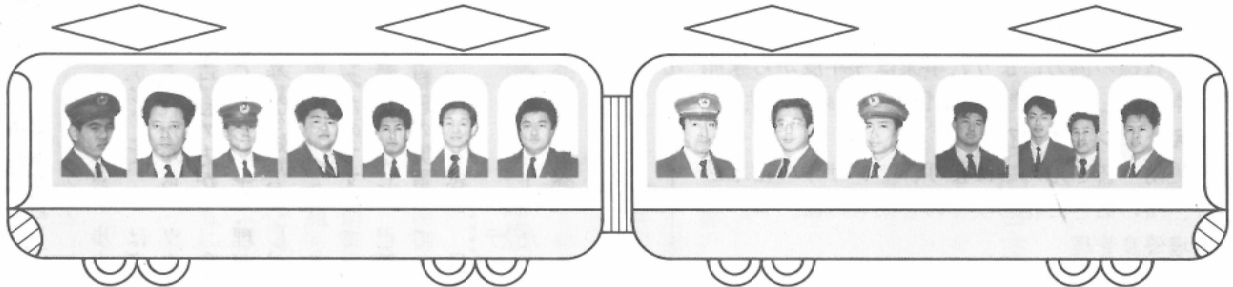
シリーズ その②

「海蔵神社」

シリーズ第二弾として海蔵地区の皆様によく知られ、親しまれている「海蔵神社」をご紹介します。 (祭神・素盞鳴命、神職・喜多島弘重宮司) 由緒は、阿倉川の地が、東西阿倉川に分村する以前から、東阿倉川の南条、中条、北条各地区(現在の東阿倉川、阿倉川町、万古町の三町の旧称)に住んだ住民が産土神として又は、他の理由で信仰した諸社を合祀せられた神社であります。奥の拝殿の中には、約二百九十五年前、元禄十四年頃の石灯笼一対が、歴史をもの語ってくれるかのように、ひっそりと、置かれております。

神社は奉賛会の皆様の努力とお世話により守られております。年間を通じて元旦祭、月並祭(一日と十五日)、節分、春の祭り、稲荷大祭、山の神まつり、夏祭り、秋の大祭、七五三詣り、新嘗祭(勤労感謝祭)、越年祭などの祭事で神社はにぎわいをみせます。

また、毎年十月に境内の平和塔の前で地区戦没戦災者の慰霊祭が行われております。



わたしたちの街のエキスパート 阿倉川駅の「駅員さん」

私たち、乗客の安全を見守っている駅員さん。今回は、近鉄阿倉川駅の駅員さんにスポットをあててみました。

二十代が八人、四十代が六人、平均年齢三十五才という比較的若い駅員さん十四人の方が毎日交替でがんばっています。

「趣味は何ですか?」の間に、釣りという意見が多く、次にスポーツ・自動車・ドライブ・読書という順でした。

次に、駅員さんになった理由を聞いてみると、「親戚、近所に近鉄職員がいたから」、「鉄道への憧れ・制服が着たかったから」、「いろいろな人と出会えると思ったから」、「小学生の頃から入りたかったから」でした。小さい頃からの夢が実現しているというのは、とても羨ましいことです。

そして、「乗客の方へ一言」というのを願って見ました。すると殆どの方は、「マナーを守って下さい」という返事でした。ここに一人の方の紹介しますと、「私たちは、お客様をお迎えする気持ちで業務しております。マナーを守ってご利用していただければと思います。マナーを守るのとは簡単にと、口で言うのは誰でもできます。しかし、いざ実行となるとどうでしょう。難しいかもしれませんが、きれいな駅を保つためには、乗客一人一人の協力が必要だと思います。」

さらに、一生懸命業務に励んでいる駅員さんへ一言挨拶してみるのはいかがでしょうか。気持ちいいですよ。